

老年期の器質性精神障害の種類と特徴

せん妄	特徴	意識障害の一種、意識の混濁に加えて、幻覚、妄想、興奮を伴う。	
	原因	脳の器質性疾患。その他もある。	
	症状	急激に発症する。夜間に多い。意識混濁の程度が動揺する。2～3日から1週間で普通はよくなる。	
	治療	脳代謝改善薬、脳代謝賦活薬の投与を行う。ときに、抗精神薬を使う。	
アルツハイマー型 痴呆	特徴	65以上に発病する。痴呆が主症状。脳の萎縮を起こす。女性に多い。	
	原因	神経伝達物質などが言われているが、原因は不明。	
	症状	記憶障害、知能の低下、人柄の変化が最初に起こる。特に、記憶障害が目立つ。作り話をすることもある。 見当識が失われる。知能の低下が進み、理解力、判断力も低下する。 夜間専門が見られる。妄想は、被害妄想、関係妄想、嫉妬妄想が多い。	
	診断	臨床症状。CT、MRIにより、脳萎縮を認める。	
	治療	確立されていないが、抗痴呆薬での治療を行う。また、随伴精神症状に対する治療が中心となる。	
	対応	正しい診断を受ける。定期的に通院する。住み慣れた自宅で家族ので介護を受けられるようにするとよい。	
脳血管性痴呆	原因	脳動脈硬化による、脳梗塞、脳出血による組織の障害。	
	症状	記憶障害、見当識障害が現れる。記憶障害が高度なわりに、人格や日常的な判断・理解力はある。知能の障害にむらがあるので、「まだら痴呆」と呼ばれる。夜間にせん妄を起こす。妄想も見られる。神経症状として、方麻痺、知覚障害、言語障害、構語障害がある。	
	診断	臨床症状。CT、MRIや脳血管写により、病変を認める。	
	治療	抗動脈硬化薬、脳代謝賦活薬、脳循環改善薬の投与。	
初老期痴呆	アルツハイマー型痴呆 (早発性)	特徴	初老期に発症する。アルツハイマー型痴呆と同じ。
	ピック病	特徴	脳の萎縮は、前頭葉、側頭葉に著明。男性に多い。
		原因	遺伝が重視されているが、原因は不明。
		症状	人柄の変化、言動の異常が目立ち、失語もみられる。 道徳感情、倫理感情が乏しくなる。怠惰、無分別な行動、盗み、性的にふしだらな逸脱行動がみられる。 話しかけても、無頓着、無関心、不真面目な態度で非協力的、小馬鹿にして
		診断	臨床症状とCT、MRIにより、脳の萎縮を認める。
治療・ 対応	アルツハイマー型痴呆と同じ		

資料作成：長崎和則(2003-11-04)